



令和4年11月14日

各 位

会 社 名 株式会社 東京一番フーズ
代 表 者 名 代表取締役社長 坂本 大地
(コード番号：3067 東証プライム)
問 合 せ 先 常務取締役 掛川 洋一
(TEL：03-5363-2132)

特別損失（減損損失）の計上、前期連結実績と当期連結実績の差異及び
剰余金の配当（無配）に関するお知らせ

当社は、令和4年11月14日開催の取締役会において、当第4四半期会計期間（令和4年7月1日～令和4年9月30日）における特別損失を下記のとおり計上すること、及び、令和4年9月30日を基準日とする剰余金の配当を無配とすることを決議いたしましたのでお知らせいたします。また、令和3年9月期連結業績と本日発表の実績値との間に下記のとおり差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失（減損損失）の内容

当社グループが展開する飲食事業において、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う事業環境の変化および足元の経済状況を踏まえ、当社および連結子会社が運営する店舗の一部に関する固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、将来の回収可能性を検討した結果、収益性の低下が見られたため、回収可能価額まで減額する等、特別損失として、減損損失45百万円を計上することを決定いたしました。

2. 令和4年9月期通期連結業績と前年実績値の差異について

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 期 実 績 (A) (令和3年9月期)	百万円 4,518	百万円 △1,108	百万円 121	百万円 17	円 銭 1.97
当 期 実 績 (B)	6,062	△367	274	121	13.73
前期実績差 (B-A)	1,544	741	153	104	
増 減 率 (%)	34.2	—	126.1	598.3	

3. 前期連結業績値と当期連結実績値に差異が生じた理由

依然として新型コロナウイルス感染症の完全収束は不透明ですが、当期は新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の解除に加え、店舗での感染症対策が徹底されたことにより、業績が回復したものであります。

4. 剰余金の配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (令和4年5月13日公表)	前期実績 (令和3年9月期)
基準日	令和4年9月30日	同左	令和3年9月30日
1株あたり配当金	0円00銭	未定	0円00銭
配当金の総額	—	—	—
効力発生日	—	—	—
配当原資	—	—	—

5. 理由

当社は、株主の皆様への適切な利益還元を経営上の最重要課題と位置付けております。しかしながら、令和4年9月期は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う業績への影響から、配当予想を未定としておりました。令和4年9月期は、東京都等によるまん延防止等重点措置の発令の影響等により、令和3年9月期に引き続き、当社を取り巻く経営環境は厳しいものとなりました。株主の皆様への適切な利益還元を念頭に置きつつも、足元の財務体質改善を図ってまいりため、まことに遺憾ではございますが、無配とさせていただきますことに決定いたしました。

以上